

## 活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班

提出日： 令和 7 年 4 月 7 日

報告者：森部龍一

行事種別	研究会	行事番号	250000254
開催日	令和 7 年 4 月 5 日 (土)		
時間	開始	15:00	終了 17:00
場所・配信	(所在地) リップルスクエア		
テーマ	感染症項目について学ぶ		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	名古屋市立大学病院 清水和樹 JA 愛知厚生連 海南病院 西野悠紀		
講師	1. 身につけよう、肝炎ウイルスの正しい知識 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 神宮司帆乃香 2. 性感染症について 春日井市民病院 伊藤彰吾		
内容	本研究会では、近年増加している性感染症に焦点を当て、性感染症の疫学から、検査項目、検査結果の解釈、治療などについて講演いただいた。 講演 1 では、肝炎ウイルスの正しい知識について、肝炎コーディネーターの知識も交えながら、HBV と HCV について詳細にお話しいただいた。 講演 2 では、梅毒や HIV について、お話しいただいた。さらに免疫検査ではよく遭遇する非特異反応にも触れ、その対処法などについてもお話しいただいた。		
参加者	合計：54 名 (会員 47 名、県外会員 0 名、講師 2 名、実務委員 5 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名) 事前参加申込数：44 名		
共催、後援など	無し		

合計：現地開催 (講師・実務委員・参加者)、  
ライブ・オンデマンド配信 (講師・実務委員・レポート提出者)

活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班

提出日：令和7年7月10日

報告者：森部龍一

行事種別	研究会	行事番号	250001963
開催日	令和7年7月5日(土)		
時間	開始	15:00	終了 17:00
場所・配信	(所在地) リップルスクエア		
テーマ	他施設の検査室の運用をのぞいてみよう		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	グッドライフデザイン 小栗美里 半田市医師会健康管理センター 竹内実菜美		
講師	1. 当院臨床検査室における生化学検体の処理運用方法について 安城更生病院 青山和史 2. 当院の運用方法について 刈谷豊田総合病院 櫻井祐月		
内容	検体の採取・運搬・受付・測定・保管など、施設によって運用は様々です。 本研究会では、2名の講師に、自施設の検査室の運用を化学免疫分野中心にお話しただいた。 講演1では、動画を使用し、検体を機器に投入してから保管までの詳細な解説に加え、化学免疫部門での人員の配置についてもお話しただいた。 講演2では、検査室の運用に加え、独自開発した教育管理システムや点検管理システムを用い、人材・記録・安全などの一元管理を行っている内容であった。		
参加者	合計：58名(会員50名、県外会員0名、講師2名、実務委員5名、非会員0名、賛助会員1名、学生0名、その他0名) 事前参加申込数：43名		
共催、後援など	無し		

合計：現地開催(講師・実務委員・参加者)、  
ライブ・オンデマンド配信(講師・実務委員・レポート提出者)

## 活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班

提出日：令和7年10月24日

報告者：森部龍一

行事種別	研究会	行事番号	250009714
開催日	令和7年10月19日(日)		
時間	開始	10:00	終了 16:00
場所・配信	(所在地 リップルスクエア		
テーマ	臨床検査技師に知っておいてほしいアレコレ		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	愛知医科大学病院 森部龍一 春日井市民病院 衛藤麻理子 安城更生病院 青山和史		
講師	1. 「臨床検査技師に知っておいてほしい統計」 愛知医科大学 臨床研究支援センター 准教授 大橋渉 2. 「知っておきたい生化学測定の基礎とバリデーション」 積水メディカル株式会社 カスタマーサポートセンター 学術企画グループ 高田真由美 3. 「試薬切替え、学会発表前提の試薬性能の検討手法の基礎」 シスメックス株式会社 カスタマーサポート部 学術サポートグループ 柴田宏 4. 症例検討(グループディスカッション) 藤田医科大学 岡崎医療センター 田中亜希 新城市民病院 工藤雄貴		

合計：現地開催(講師・実務委員・参加者)、  
ライブ・オンデマンド配信(講師・実務委員・レポート提出者)

内容	<p>本基礎講座では「臨床検査技師に知っておいてほしいアレコレ」をテーマに開催した。</p> <p>講演1では、普段学ぶ機会が少ない統計について、お話しいただいた。統計の基礎、検定、n数やデザインの重要性についてわかりやすく解説いただいた。</p> <p>講演2では「知っておきたい生化学測定的基础とバリデーション」について、生化学領域の自動分析装置で測定される項目・濃度範囲、分析条件、キャリブレーション、バリデーションについてお話しいただいた。</p> <p>講演3では、「試薬切替え、学会発表前提の試薬性能の検討手法の基礎」について、免疫反応と生化学反応の違い・活性とタンパク量測定の違いから、試薬検討方法についてお話しいただいた。</p> <p>講演4では2つの症例についてグループディスカッションを実施した。各グループで活発な意見交換があり、最後に2名の講師から症例の解説をしていただいた。</p>
参加者	合計：41名（会員23名、県外会員0名、講師5名、実務委員10名、非会員1名、賛助会員2名、学生0名、その他0名）事前参加申込数：26名
共催、後援など	無し

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、  
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

## 活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班

提出日：令和4年1月16日

報告者：森部龍一

行事種別	講演会	行事番号	250015687
開催日	令和7年12月6日(土)～19日(金)		
時間	開始	-	終了
場所・配信	オンデマンド・オンデマンド配信		
テーマ	ピットフォール		
生涯教育履修点数	専門教科	20	点
司会	無し		
講師	1.「臨床化学検査におけるピットフォール」 藤田医科大学病院 藤田裕佳 2.「免疫検査のピットフォール」 名古屋市立大学病院 服部真奈 3.「検査前プロセスと検査値への影響～採血による誤差要因とQ&Aのご紹介～」 積水メディカル株式会社 カスタマーサポートセンター 学術企画グループ 高田真由美		
内容	令和7年度12月講演会ではピットフォールをテーマに、臨床化学および免疫分野から日頃遭遇しやすい事例などについて、講演いただいた。 講演1の臨床化学分野では、検査前・検査中・検査後と分けて、それぞれ遭遇しやすい事例・症例について解説いただいた。 講演2の免疫分野では、免疫特有の反応におけるピットフォール事例を解説いただき、異常値に遭遇した時の対処法についても紹介いただいた。 講演3では、主に採血手技や採血管に関係するピットフォール事例を解説いただいた。		
参加者	合計：238名(会員115名、県外会員120名、講師3名、実務委員0名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他0名)事前参加申込数：343名		
共催、後援など	生物試料分析科学会 東海北陸支部		

合計：現地開催(講師・実務委員・参加者)、

ライブ・オンデマンド配信(講師・実務委員・レポート提出者)

## 活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班

提出日：令和8年2月18日

報告者：森部龍一

行事種別	研究会	行事番号	250020975	
開催日	令和8年2月7日(土)			
時間	開始	15:00	終了	17:00
場所・配信	(所在地) リップルスクエア			
テーマ	令和7年度愛臨技精度管理調査報告			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	新城市民病院 工藤 雄貴 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 神宮司 帆乃香			
講師	1. 「臨床化学検査部門」 藤田医科大学病院 岡崎医療センター 田中 亜希 グッドライフデザイン 中嶋 美里 2. 「免疫血清検査部門」 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 伊藤 綾香 3. 「実はこんなに簡単だった！キソから学ぶ血液ガス分析データのみかた」 シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 POC 事業部 学術担当 濱田 宏輝			
内容	この研究会では、令和7年度愛臨技精度管理調査における、臨床化学検査部門および免疫血清検査部門における今年度の傾向と調査結果を詳細について報告された。 講演1の臨床化学検査部門では、結果は例年通りの水準であり、今後尿化学項目についてのサーベイを検討していく旨の説明があった。 講演2の免疫血清検査部門では、感染症項目において、入力間違いが目立ち、HBs 抗原とHIVにおいて評価対象外があった。また、腫瘍マーカー・ホルモン項目のC・D評価施設の割合は、昨年同様やや多かったことが、報告された。 講演3では、血液ガスのデータの解釈の仕方について、症例を交えながら解説いただいた。			
参加者	合計：35名(会員24名、県外会員0名、講師4名、実務委員5名、非会員0名、賛助会員2名、学生0名、その他0名) 事前参加申込数：24名			
共催、後援など	無し			

合計：現地開催(講師・実務委員・参加者)、  
ライブ・オンデマンド配信(講師・実務委員・レポート提出者)